

文化学園所蔵「形柄帳」およびその関連資料群のアーカイブ化

Digital Archives of *Katazome* Sample Books and Related Materials

近藤 尚子* 田中 直人** 中村 弥生*** 関口 光子****

KONDO Takako, TANAKA Naoto, NAKAMURA Yayoi and SEKIGUCHI Mitsuko

要旨

文化ファッション研究機構では、これまで学内機関所蔵の未整理・未公開資料の情報を整理し、研究報告として発信してきた。研究・教育の場における活用を促進すべく、2020年度にはこれら資料情報を共有するためのWebサイトの立ち上げも行っている。本資料紹介で扱うのは、本学園の附属機関である文化・ファッションテキスタイル研究所の所蔵する、明治末～大正初期に向島（東京都）にて営まれた注染の染工場の「形柄帳」およびその商取引における帳簿類、全46冊の資料群である。2013（平成25）年に同染工場が廃業した際にあわせて廃棄される予定であったものを、本学園が譲り受けたものである。本資料の「形柄帳」には、柄（型紙）のサンプルと、それぞれの柄の発注を受けた月日、取引先、反数などが記載されており、当時の染色産業の一端がうかがえる貴重な資料となっている。また、「型紙」は我が国固有のデザインとして国内外から高く評価され、既にデザインソースとしての利活用が進められている。未だ全ての資料調査を終えていないが、多分野にわたる研究・教育の利活用が見込まれる本資料群について、その概要を紹介する。

●キーワード：形柄帳 (*katazome* sample book) / 染工場 (*dye works*) / アーカイブ (*archives*)

I. はじめに

文化ファッション研究機構（以下、BFRI）では、文化学園内各所に所蔵される服飾関連資料の、学内における共同利用を促進すべく、情報の収集とネットワークの構築を行ってきた。これら経験から学んだのは、部門・部署を超えた資料情報の共有は仲介者不在では容易に進まないという事実であり、情報を収集、整理して共有することの意義を、実際にとりまとめたデータを示しながら継続的に発信してゆくことの大切さである。こうした課題認識に基づいて、これまでに以下3件の資料の情報を整理し、研究報告として発信してきた。

・「雑誌『装苑』掲載資料」¹⁾

所蔵：文化学園ファッションリソースセンター

・「被服構成学実習教材」²⁾

所蔵：文化学園大学短期大学部

・「ピエール・カルダン関連資料群」³⁾

所蔵：文化学園図書館、文化学園服飾博物館、文化学園ファッションリソースセンター、文化学園大学短期大学部、秘書室・総務課

また、これら資料の存在をより広く伝えるべく、2020

年度からは学内限定公開サイト「BFRI研究・教育資源アーカイブ」を立ち上げ、Web上で資料情報の共有を始めた。

しかし、取り上げたコンテンツが研究・教育の場で十分に活用されているとは言い難く、活性化をはかる必要も感じている。そこで、研究・教育の場での事前ヒアリングにこれまで以上に時間を割き、積極利用が見込まれる資料を優先してアーカイブ化を進めることとした。以下紹介するのは、明治末～大正期に染工場にて使用された「形柄帳」と商取引における帳簿類である。ヒアリングにより、産業、技術史研究に有用であるのみならず、形柄のデザインソースとしての利用も見込まれると評価された研究・教育資源である。

II. 文化学園所蔵「形柄帳」およびその関連資料群

本資料群は文化・ファッションテキスタイル研究所が2013（平成25）年に廃業した染工場⁴⁾から研究利用に託された「形柄帳」と帳簿類である。資料の種別や使用されていた年代、資料外寸などを表1に、全46冊の表紙の画像を表2に示す。本資料群の内37冊（No.1～37）

表1 資料の種別・年代と資料外寸一覧

No.	種別	表紙情報			その他情報 (裏表紙、小口等)	外寸(mm)		
		号	年	月日		縦	横	背幅
1	形柄帳	第二号	大正三年	寅六月吉日	表紙「冬物形柄帳」	297	205	22
2		第二号	大正三年	寅十一月吉日	表紙「夏物形柄帳」	299	205	22
3		第四号	大正四年	卯十月吉日	表紙「夏物形柄帳」	298	208	23
4		第五号	大正四年	卯十月吉日	-	300	208	25
5		第六号	大正五年	辰九月吉日	-	296	205	26
6		第七号	大正五年	辰九月吉日	-	297	205	28
7		第八号	大正五年	辰九月吉日	-	296	204	26
8		第九号	大正五年	辰九月吉日	-	296	205	24
9		第十号	大正五年	辰九月吉日	-	298	206	20
10		第十一号	大正六年	巳十二月吉日	-	297	204	18
11		第十二号	大正六年	巳十二月吉日	-	296	203	17
12		第十三号	大正六年	巳十二月吉日	-	296	205	19
13		第十四号	大正六年	巳十二月吉日	-	297	204	18
14		第十五号	大正六年	巳十二月吉日	-	296	205	17
15		第十六号	大正八年	未十二月吉日	-	296	204	17
16		第十七号	大正八年	未十二月吉日	-	297	203	18
17		第十八号	大正八年	未十二月吉日	-	298	204	18
18		第十九号	大正八年	未十二月吉日	-	296	203	10
19		-	-	-	-	内容から形柄帳か?	242	168
20	形附帳	二号内板場	大正四年	卯九月吉日	背「内」	148	204	35
21		三号外板場	大正五年	辰十月吉日	背「外」	148	207	38
22	形附引合	-	大正八年	十一月吉日	背「形柄」	149	203	47
23		-	大正八年	-	表紙「夏物」	148	206	8
24		-	大正十年	十月吉日	地「幸」	148	204	12
25		-	大正 年	十月吉日	地「■」	147	204	9
26		-	大正 年	月吉日	-	149	204	7
27		-	-	-	紐付き	148	202	9
28		-	-	-	紐付き 裏表紙「仙波」	149	204	11
29		-	-	-	裏表紙「形幸」	148	200	8
30		-	-	-	表紙「辰幸」	148	200	7
31		-	-	-	表紙「亀」	148	203	9
32		-	-	-	表紙「卯初」	148	202	7
33		-	-	-	裏表紙「卯」 背「4」	148	205	11
34		-	-	-	表紙「六月■七日」 小口「幸 幸」 背「コ 5」	148	204	8
35		-	-	-	-	147	200	7
36		-	-	-	-	148	203	7
37	形柄摺込	-	-	-	小口「形柄摺込」 背「外」	148	208	35
38	商附上帳	-	明治三十八年	巳九月吉日	-	298	206	16
39	商品注文帳	-	明治四十年	未一月吉日	-	297	206	32
40	誂註文帳	第一号	明治四十一年	申六月吉日	-	297	205	38
41	職方生地出入帳	-	大正四年	■三月吉日	-	241	165	42
42	納品帳	-	大正六年	巳四月吉日	地「納品帳三号」	241	166	36
43		四号	大正七年	午五月吉日	地「納品帳四号」	241	168	34
44	生地出納	-	大正六年	己一月	-	147	204	36
45		-	-	-	小口「生地出納」	149	206	36
46	池金廻し	-	-	-	小口「池金廻シ」	150	205	37

※■：判読不能な文字

※旧字体を新字体にしている

表2 資料表紙画像

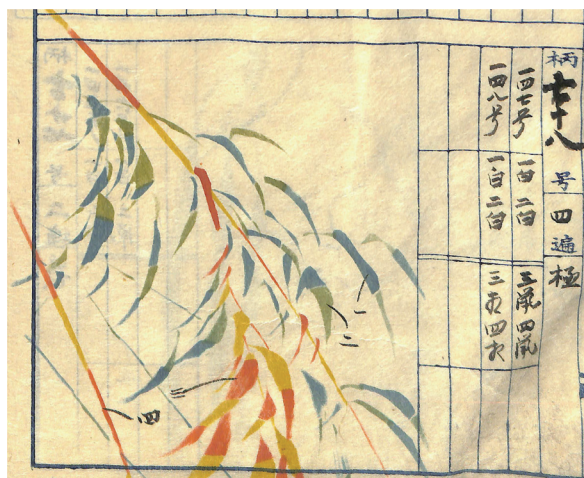
No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8
No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16
No. 17	No. 18	No. 19	No. 20	No. 21	No. 22	No. 23	No. 24
No. 25	No. 26	No. 27	No. 28	No. 29	No. 30	No. 31	No. 32
No. 33	No. 34	No. 35	No. 36	No. 37	No. 38	No. 39	No. 40
No. 41	No. 42	No. 43	No. 44	No. 45	No. 46		

※←：矢印の方向が天。横型の資料。

は形柄のサンプルや使用する型紙の情報とその商取引の内容が掲載されている資料で、残りの9冊 (No.38~46) は形柄の情報は掲載されず、商取引の内容のみ記載されている帳簿類であることが分かった。資料の種別ごとに記載されていた内容を、現時点で調査が完了した範囲で列挙する。

①形柄帳 (No. 1~19)

形柄情報：型染サンプル、型数、グレードなど
 取引内容：月日、名、口形、地色小色、品名反数、出形日、納数月日、摘要皆済など



画像1 形柄帳 (部分：形柄情報)

画像1は、形柄帳の形柄に関する情報のみを切り取ったものである。右側には柄の番号、型紙の枚数、染め方が記されており、左側には柄の一部が染められていた。形柄によっては、紗が見えるものがあったため、実際に使用する型紙を用い染められていると考えられる。また一部の形柄には「極」「最」「上」といった文字が記載されており、これはこの型紙のグレードであると考えられる。

②形附帳 (No. 20, 21)、形附引合 (No. 22~36)

形柄情報：型染サンプル、型数、グレードなど
 取引内容：出月日、口印、地色形色、品名反数、入数、月日、摘要、皆済日など

③形柄摺込 (No. 37)

形柄情報：型染サンプル、型数、グレードなど
 取引内容：月日、取引先、品名反数など

④商附上帳 (No. 38)、商品注文帳 (No. 39)、
 誂注文帳 (No. 40)
 取引内容：月日、取引先、期限月日、諸用 (代金)、
 品名数など

⑤職方生地出入帳 (No. 41)
 取引内容：取引先、種、番手、反数、品、価格など

⑥納品帳 (No. 42, 43)
 取引内容：月日、取引先、品名、反数など

⑦生地出納 (No. 44, 45)、地金廻し (No. 46)
 取引内容：月日、取引先、反数など

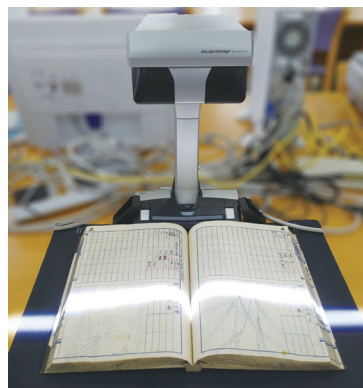
記載内容は以上ようになっており、No. 1~37は図案帳と大福帳がミックスされた資料であり、No. 38~46は大福帳に近い資料であると言える。

Ⅲ. アーカイブ化

現在、全ページを画像化する作業を行っており、画像化を終えた資料はNo. 1~8, 38~41の12冊である。使用した機器は、オーバーヘッド型スキャナとデジタル一眼レフカメラである。主として使用したのはオーバーヘッド型スキャナであるが、その読み取り範囲を超える大きさの資料に関してはデジタル一眼レフカメラを使用した。使用した機器について以下に述べる。

・オーバーヘッド型スキャナ

使用した機器はScanSnap SV600 (FUJITSU製)、読み込み条件は解像度をカラー300dpi、画像ファイルの保存形式をJPEGとした。スキャン方法は、画像2に示した通り見開き状態で行った。



画像2 オーバーヘッド型スキャナ

・デジタル一眼レフカメラ

Nikon D60 (AF-S DX NIKKOR 18-55mmF3.5-5.6G VR) を使用し、オートフォーカスで撮影した。撮影方法は、オーバーヘッド型スキャナと同様に見開き状態で撮影した。

また、これまで筆者らが行ってきた資料のアーカイブ化では資料の名称は敢えて付さない「概報」(資料No.、資料画像、資料寸法のみ)を公開してきたが、事前ヒアリングより、活用を活性化するには検索機能が必要との結果を得たため、形柄の柄についての資料情報を付すことを決めた。現在、形柄の名称(例:麻の葉、千鳥、源氏香など)や分類(例:植物、動物、器物など)のタグ付け作業を資料の画像化と並行して行っている。

IV. おわりに

本稿は、「形柄帳」およびその関連資料群の概要を伝え、研究・教育活動における同資料の活用を促そうとするものである。結びに代えて、以下ではその資料としての魅力の一端を紹介しておきたい。

同資料に載る形柄には、服飾や調度品制作の場における、デザインソースとしての活用が見込まれる⁵⁾。近世、近代の服飾に用いられた柄に対するこうした側面からの需要は、型紙⁶⁾に関する一般書籍が多数出版され、我が国固有のデザインとして、その価値が高く評価されていることからもうかがい知られるところである⁷⁾。型紙を用いる染色品⁸⁾の図案集である「形柄帳」は、デザインソースという面にのみ注目すれば、これら型紙と横並びに捉えることのできる資料ともいえる。

加えて、同資料の価値をより高めているのは、併記される帳簿部分の存在である。ここには、どの形柄にどれだけの注文が入ったかがつぶさに記録されている。確かにこれは、ひとつの染工場における数年間の注文実績に過ぎず、単独で当該時代の流行を掴むことは困難であるが、明治、大正期の産業、技術史分野の研究において多角的な活用が期待される貴重な情報であるといえよう。

謝辞 資料をご提供いただいた文化・ファッションテキスタイル研究所の宮本英治氏、ヒアリングにご協力いただいた瀬藤貴史氏、佐藤百合子氏に御礼申し上げます。

注

- 1) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 関口光子: 学園内所蔵資料の研究利用促進に向けた初歩的検討と試行—デジタルアーカイブ化を意識した未整理資料調査と概報作成—, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 50, pp.119-124 (2019)
- 2) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 小出恵, 関口光子: 文化学園大学短期大学部所蔵被服構成学実習教材について, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 51, pp.136-139 (2020)
- 3) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 小出恵, 関口光子: 文化学園所蔵のピエール・カルダン関連資料群の紹介, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 52, pp.111-116 (2021)
- 4) 本資料群が使用されていた明治末~大正期は向島で開業していたが、廃業当時は町田で開業していた注染の染工場である。
- 5) 型紙データベースをWeb上で公開している所蔵機関は複数あるが、熊谷市では「熊谷染型紙イメージアーカイブ」として型紙を公開するだけでなく、型紙の画像データを商業利用も可能な形で公開している。
- 6) 型紙とは渋紙に文様を彫り抜いたものである。主に捺染や注染といった手法で布地に文様を染める時に使用されるものである。特に伊勢で彫られた「伊勢型紙」は、1955(昭和30)年に重要無形文化財に、1983(昭和58)年には通産省(現、経済産業省)の伝統的工芸品に、1993(平成5)年には伊勢型紙技術保存会が重要無形文化財「伊勢型紙」の保持団体に認定されている。また、現在までに「伊勢型紙」に関する技術で6名の職人が重要無形文化財保持者(人間国宝)として各個認定された、文化財としての一面もある資料である。
- 7) 型紙はその技術とデザイン性から国内の博物館で所蔵されているだけでなく、19世紀末~20世紀末、大量に海外にわたっており、メトロポリタン美術館やヴィクトリア&アルバート博物館といった欧米の美術館・博物館でも大量に所蔵されている。
- 8) 型紙を用いる染色品はいくつかあるが、本資料の染工場では注染で浴衣や手拭いを染めていたと考えられる。東京都ではその注染の浴衣や手拭いを「東京本染ゆかた・てぬぐい」として1983(昭和58)年に伝統工芸品に指定している。